

まえがき

我が国には、橋長15mを超える橋梁が14万橋以上存在しており、これらの橋梁の大半は、1950年代半ばからの高度成長期以降に建設されている。このため、これらの橋梁が架替や大規模な補修補強を必要とする時期を一斉に迎えることになると予測され、将来における道路橋の更新、維持管理負担の抑制は重要な課題である。

こうした状況を踏まえ、国総研ではデータに基づく科学的な道路資産のあり方について検討しており、道路橋の寿命に関するデータは、将来の更新、維持管理に要する費用を予測し、それらを低減、平準化するための検討を行う道路資産管理において重要な情報の一つである。ここでは、過去に実施された橋梁の架替に関する調査結果^{1)~3)}に基づき、道路橋の寿命に関する検討を行い、推計された寿命特性を用いて、我が国における道路橋の維持管理負担に関する傾向分析を行った。

本資料は、その結果を取りまとめたものである。